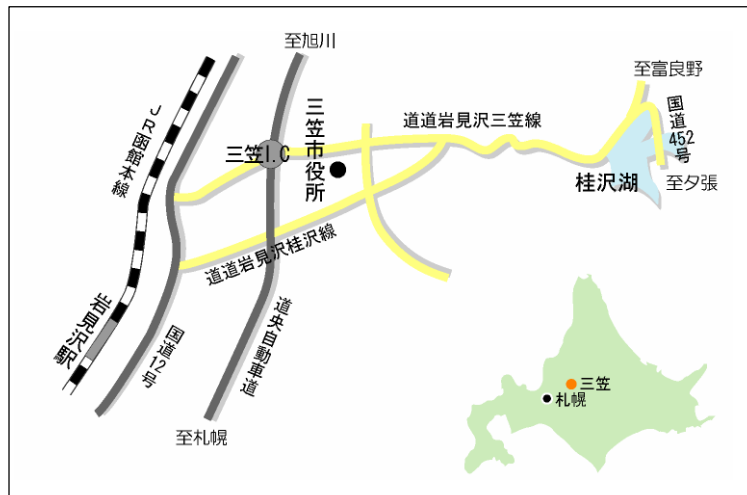


. 三笠市の現況

【位置】・・・交通利便性が高い地域

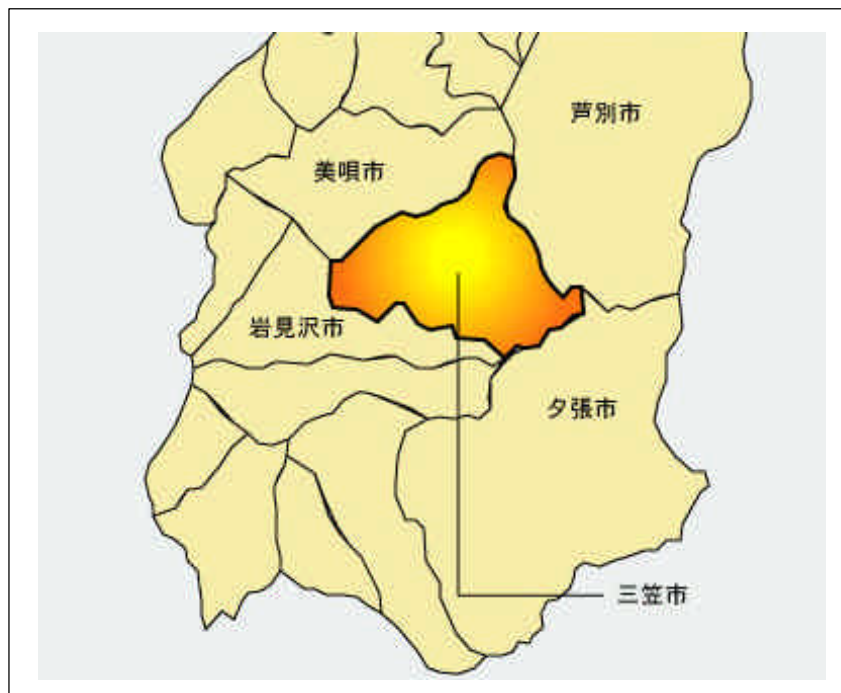
札幌市中心部から北東に約50kmの位置にあり、道央自動車道三笠I.Cから高速道路を使うと札幌へは約30分の所要時間である。

また、千歳空港及び旭川市へは約1時間の距離で、近年、富良野方面への道路整備も進み、道央・道北・道東を結ぶ交通の要衝となっている。



【面積】・・・緑豊かな森林が市の約86%を占めている

周辺を岩見沢市、美唄市、芦別市、夕張市に囲まれ、総面積は302.64km²。そのうち、約86%は自然豊かな森林である。



【気候】・・・温暖な気候だが冬の降雪量が多い

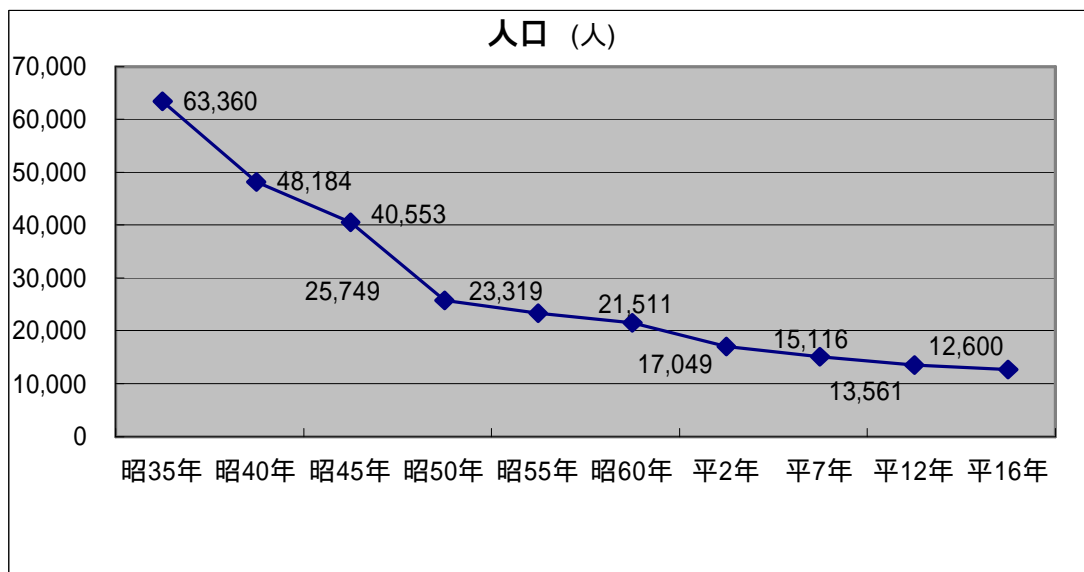
日本海側特有の気候で、比較的温暖な地域である。風は弱く、日照時間も長いことから過ごしやすい環境のまちといえるが、年間平均降雪量 8 4 3 cmの豪雪地帯であることから、冬の生活面では厳しい一面も有している。

【歴史】・・・産業・経済振興を支えた炭鉱の歴史、北海道初の鉄道開通

明治元年に幌内地区で石炭が発見され、明治 1 2 年に音羽坑大坑道の開削に着手、本格的な採炭が始まった。その後、明治 1 5 年には、石炭運搬のため幌内と小樽手宮間に北海道初の鉄道が開通した。最盛期には 1 0 を超える炭鉱が稼働していたが、エネルギー変革が進む中、昭和 4 6 年に住友奔別炭鉱が閉山し、最後まで稼働していた北炭幌内炭鉱は平成元年に閉山した。

【人口】・・・ピーク時の 5 分の 1 に減少し、高齢化が進んでいる

平成 1 6 年 3 月 3 1 日現在、人口は 1 2 , 6 0 0 人、世帯数は 6 , 1 5 5 世帯である。昭和 3 5 年のピーク時と比較すると、人口は約 5 分の 1 に減少している。

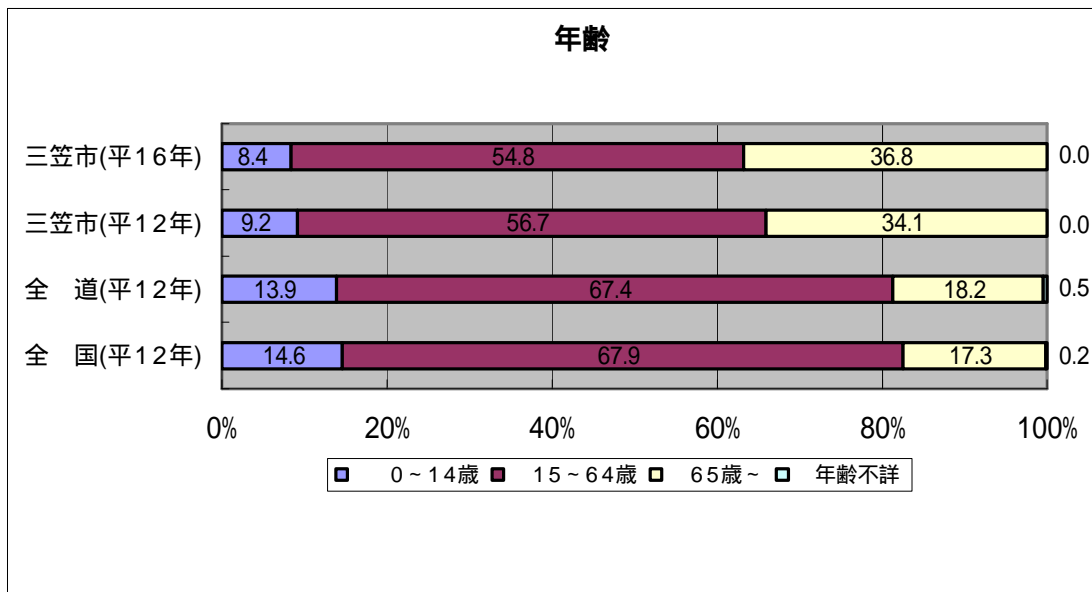


【資料：昭和 3 5 年、平成 1 6 年は住民基本台帳、他は国勢調査】

年齢構成

平成16年3月31日現在の年齢構成をみると、14歳以下の年少人口が10%を下回り、一方、65歳以上の老年人口は36.8%に達し、高齢化の状況が進んでいる。

また、平成12年の国勢調査における老年人口の割合を比較してみると、全道及び全国平均より2倍近い割合になっている。

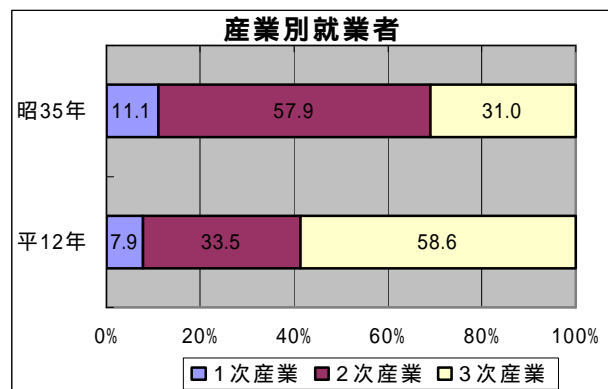


【資料：平成16年は住民基本台帳、他は国勢調査】

【産業別就業者人口】・・・第2次産業が特に減少している

昭和35年と平成12年の就業人口を比較してみると、第1次・第2次産業就業者の割合が減少し、第3次産業就業者の割合は増加し、全体の約6割に近づいている。

特に第2次産業は、炭鉱閉山による鉱業の衰退が著しく、単一基幹産業への依存度が高かったといえる。

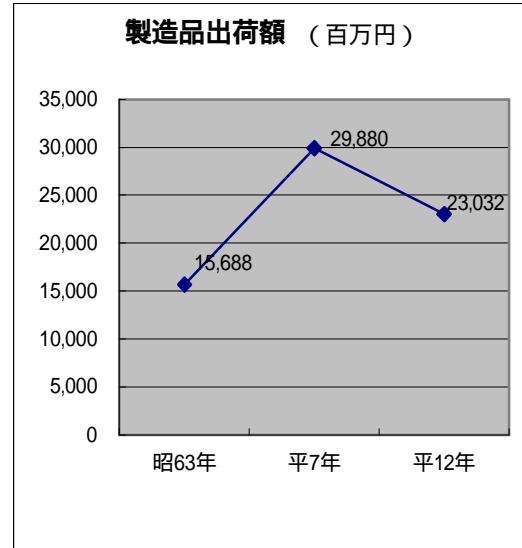
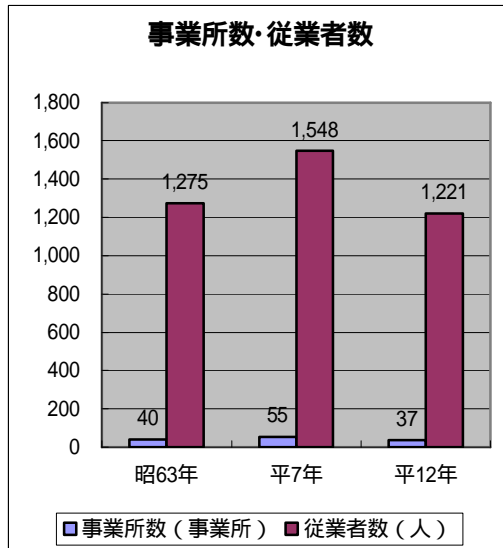


【資料：国勢調査】

鉱業就業者数：昭和35年全体の46.2% 平成12年全体の0.5%

【工業】・・・工業は停滞気味である

工業の事業所数と従業者数は、昭和 63 年には 40 事業所、1,275 人で、平成 7 年までは増加しているが、平成 12 年には 37 事業所、1,221 人まで減少している。また、製造品出荷額も停滞状況にある。

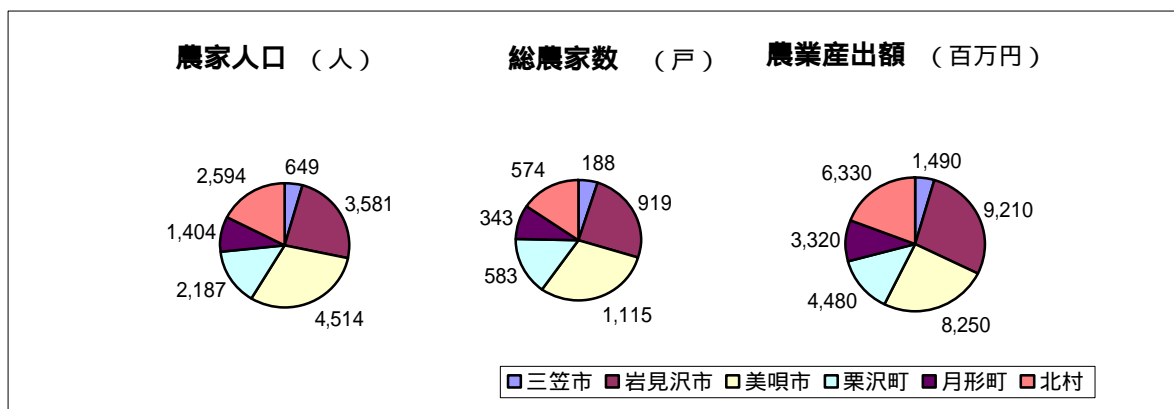


【資料：工業統計】

製造品（統計数値公表分）の主なものは、食料品、プラスチック製品、窯業・土石製品、電気機械器具等となっている。

【農業】・・・農業従事者は減少傾向にある

農家人口、農家数及び農業産出額は、近隣の中では最も少ない状況にある。

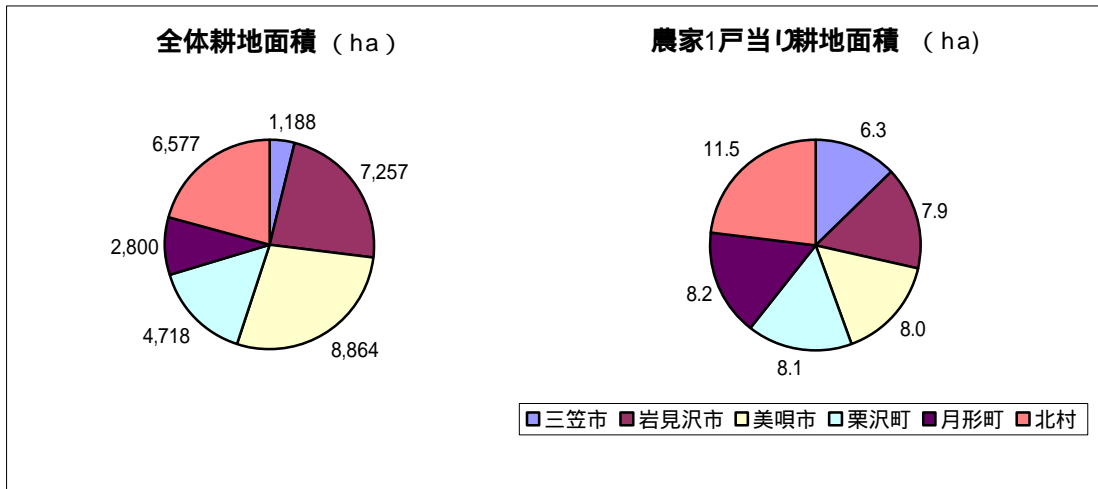


【資料：農家人口・総農家数 / 2000 年農業センサス

農業産出額 / 北海道農林水産統計年報(平成 13 年)】

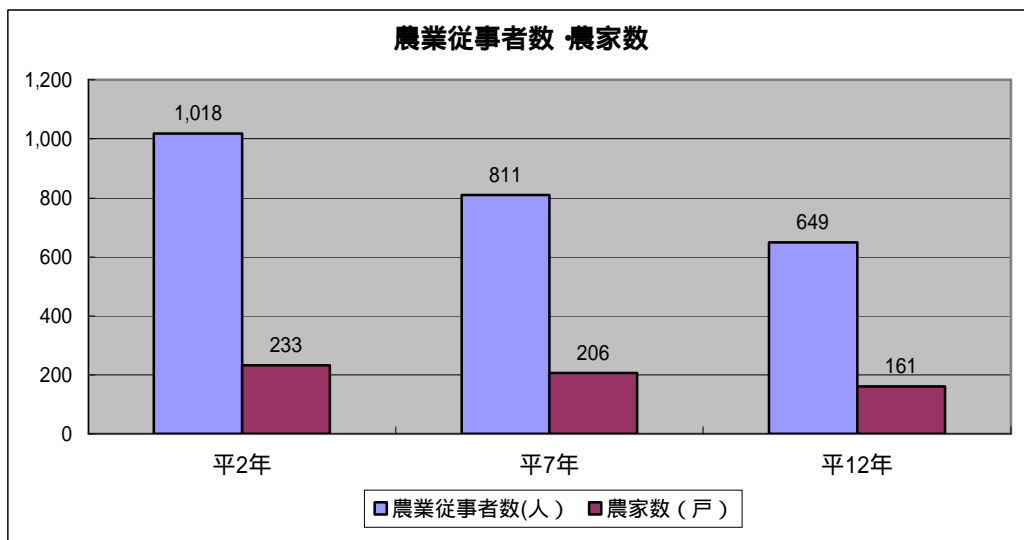
総農家数：販売農家に自給的農家を加えた数

全体及び農家1戸当りの耕地面積についても、近隣の中では小さい状況にある。



【資料：2000年農業センサス】

農業従事者数と農家数は減少傾向にある。



【資料：農業センサス】

【商業】・・・商業を取り巻く環境は厳しさを増している

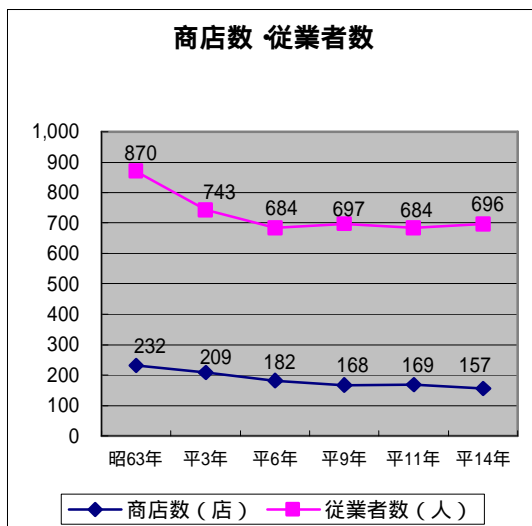
商店数、従業員数、年間販売額は、ともに減少傾向にある。商業地の空き地、空き店舗も増加傾向にあり、平成15年には中心部にあった三笠市民生協の閉鎖もあり、中心市街地における既存商店街の商業環境は厳しさを増している。

一方、岡山地区には大型商業施設の立地が決定し、当該施設立地を起爆剤とした周辺地域の活性化が期待できる。

商店数 従業者数 年間販売額

(店、人、百万円)

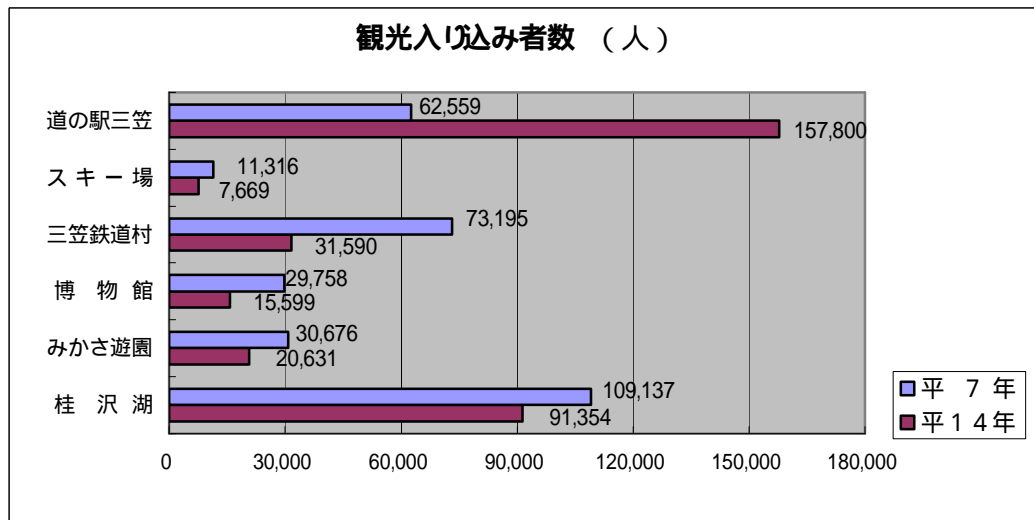
区 分	昭63年	平3年	平6年	平9年	平11年	平14年
商 店 数	232	209	182	168	169	157
従 業 者 数	870	743	684	697	684	696
年 間 販 売 額	15,917	14,497	12,989	13,625	12,444	11,922



【資料：商業統計】

【観光】・・・道の駅三笠以外の観光入り込み者数は減少している

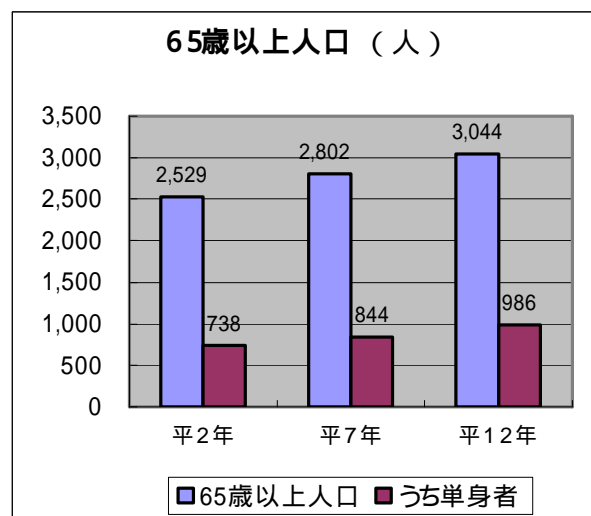
観光施設等の入り込み者数を、平成7年と平成14年とで比較してみると、国道12号沿いの道の駅三笠以外は減少しているが、入り込み者総数は若干増えている。



【資料：商工観光課調べ】

【福祉】・・・独り暮らしの高齢者が増加している

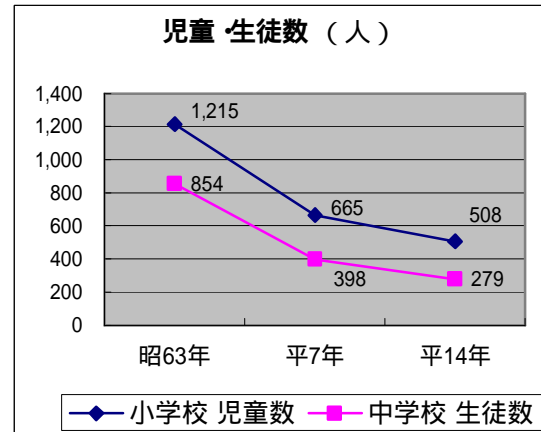
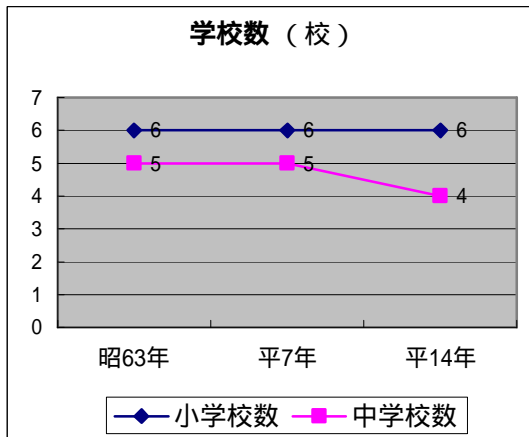
65歳以上の高齢者数は、年々増加しており、そのうち、単身者も増加傾向にある。また、高齢者に占める単身者割合は約32%となっている。



【資料：国勢調査】

【教育】・・・小・中学校の児童・生徒数は減少している

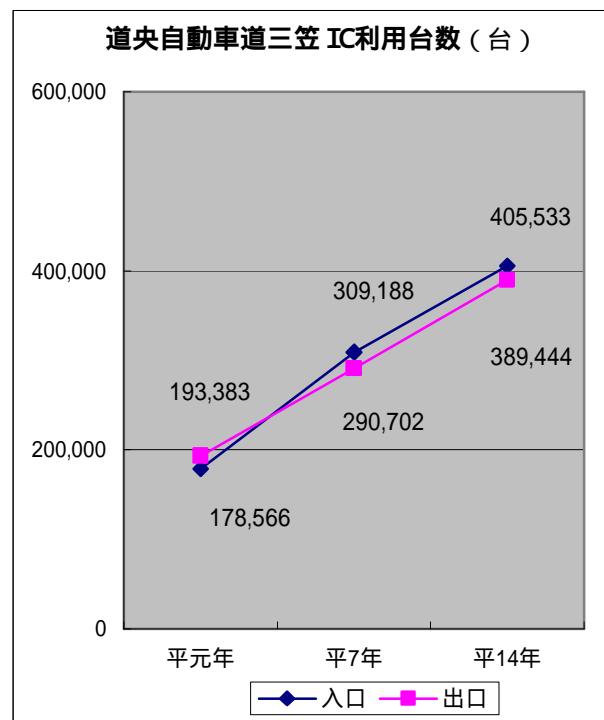
小学校、中学校の数はあまり変化していないが、児童・生徒数については年々減少し、平成14年は昭和63年の約38%となっている。



【資料：学校基本調査】

【運輸】・・・道央自動車道三笠I.Cの利用は年々増加傾向にある

富良野ルート完全舗装、年間交通可能により、平成14年の道央自動車道三笠I.Cの利用は、平成元年の2倍以上となっている。



【資料：日本道路公団北海道支社調べ】

【住宅】・・・公営住宅を主体とする借家率が高い

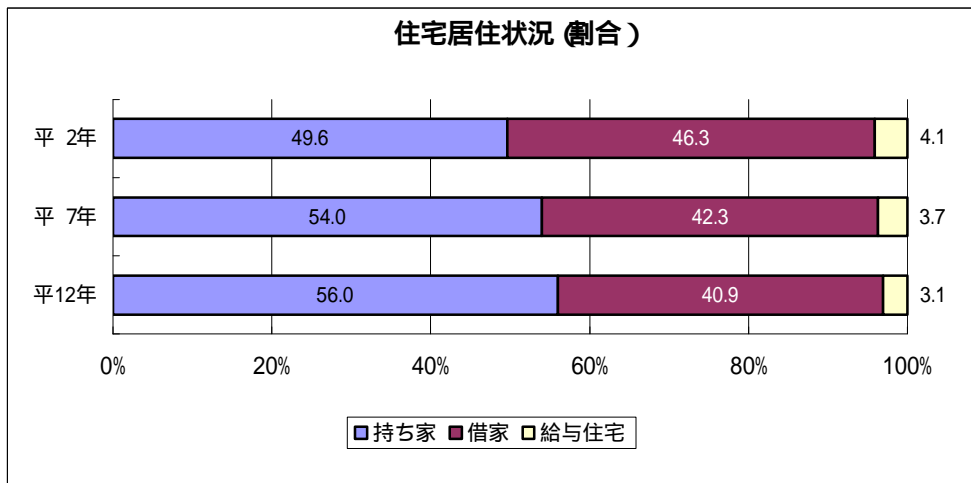
住宅居住状況の構成比をみると、持ち家が最も高くなっているが、借家居住率も約41%と高く、そのほとんどは公営住宅等の公的住宅となっている。

住宅居住状況 (戸数)

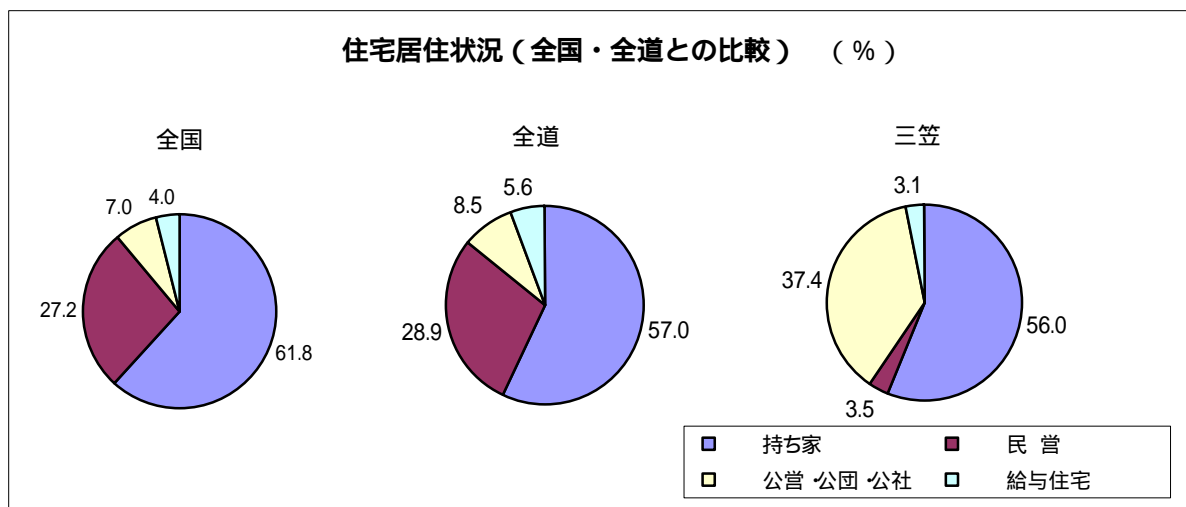
区 分	持ち家	借家	給与住宅	合計
平 2年	3,214	3,003	266	6,483
平 7年	3,317	2,598	227	6,142
平 12年	3,206	2,346	175	5,727

(戸)

住宅居住状況 (割合)



住宅居住状況 (全国・全道との比較) (%)



【資料：平成12年国勢調査】

【財政】・・・地方交付税への依存体質で、財政が硬直化

普通会計決算における収入

平成14年度の収入決算額は104億900万円で、平成9年度と比較し37億3,900万円の減少となっている。また、平成14年度決算額の内訳は、地方税(市税)が9.9%で、全国平均の34.4%、全道平均の21.8%と比較して低く、一方、地方交付税は49.8%で、全国平均の16.8%、全道平均の28.3%を大きく上回り、交付税への依存度が高くなっている。

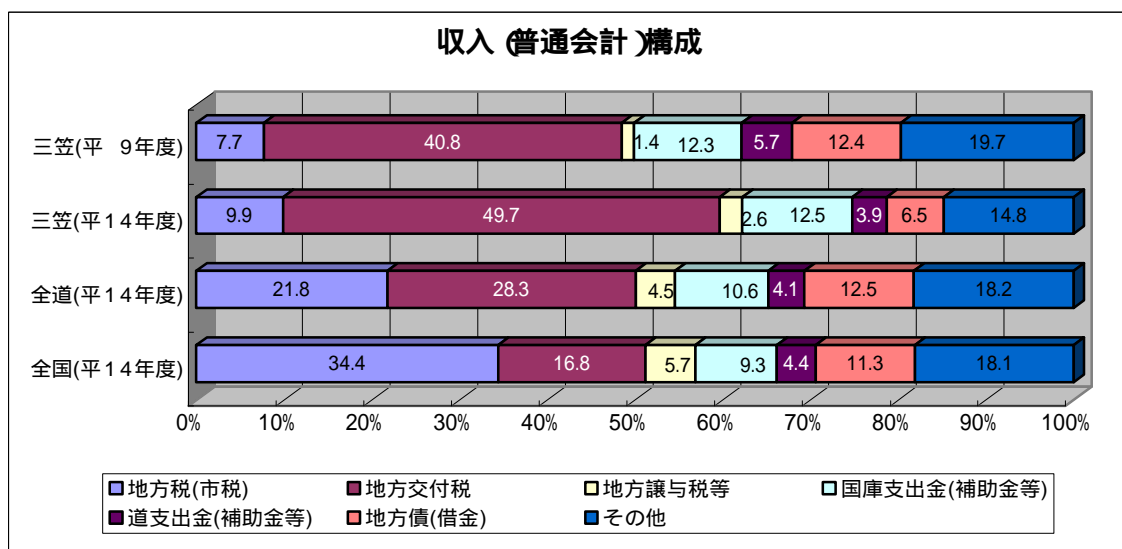
収入(普通会計)

(百万円)

区 分	三笠市				全道平均	全国平均
	平9年度		平14年度		平14年度	平14年度
		構成比(%)		構成比(%)	構成比(%)	構成比(%)
地方税(市税)	1,089	7.7	1,034	9.9	21.8	34.4
地方交付税	5,771	40.8	5,177	49.7	28.3	16.8
地方譲与税等	204	1.4	273	2.6	4.5	5.7
小 計	7,064	49.9	6,484	62.3	54.6	56.9
国庫支出金(補助金等)	1,743	12.3	1,299	12.5	10.6	9.3
道支出金(補助金等)	803	5.7	406	3.9	4.1	4.4
地方債(借金)	1,754	12.4	680	6.5	12.5	11.3
その他	2,784	19.7	1,540	14.8	18.2	18.1
合 計	14,148	100.0	10,409	100.0	100.0	100.0

地方譲与税等：地方譲与税、利子割交付金、地方消費税交付金、ゴルフ場利用税交付金、自動車取得交付金、地方特例交付金等。

【資料：地方財政状況調査】



普通会計決算における支出

平成14年度の支出決算額は103億9,800万円で、平成9年度と比較し37億3,500万円の減少となっている。その内訳をみると、道路工事や住宅建設など普通建設事業費が約19億円と大幅に減少しているほか、職員給を含む人件費も4億円を削減している。

平成14年度決算額の内訳は、投資的経費が9.3%と、全国平均の20.5%、全道平均の21.1%と比較して低く、一方、公債費(借金の返済)等の簡単に削減することが困難な義務的経費の割合が高くなっており、財政にゆとりがない状況になっている。

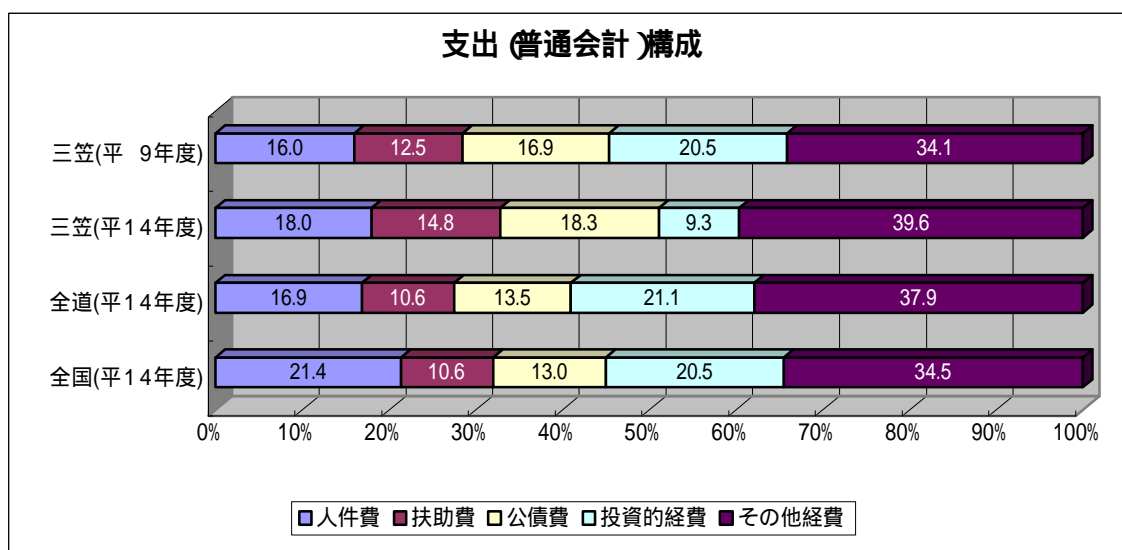
支出(普通会計)

(百万円)

区 分	三笠市				全道平均	全国平均	
	平9年度		平14年度		平14年度	平14年度	
		構成比(%)		構成比(%)	構成比(%)	構成比(%)	
義務的経費	人件費	2,267	16.0	1,867	18.0	16.9	21.4
	扶助費	1,766	12.5	1,538	14.8	10.6	10.6
	公債費	2,385	16.9	1,909	18.4	13.5	13.0
	小計	6,418	45.4	5,314	51.1	41.0	45.0
投資的経費	普通建設事業費	2,864	20.3	963	9.3	20.7	20.2
	うち補助事業	1,545	10.9	706	6.8	9.7	7.5
	うち単独事業	1,319	9.4	257	2.5	11.0	12.7
	災害復旧事業費	32	0.2	3	0.0	0.4	0.3
	失業対策事業費	0	0.0	0	0.0	0.0	0.0
	小計	2,896	20.5	966	9.3	21.1	20.5
その他経費	4,819	34.1	4,118	39.6	37.9	34.5	
合計	14,133	100.0	10,398	100.0	100.0	100.0	

その他経費：物件費、維持補修費、補助費等、投資出資貸付金、繰出金、積立金等

【資料：地方財政状況調査】



地区別現況

地区ごとの特徴や近年の動向等は次のとおりである。

地区	地区の特徴	近年の動向
岡山	<p>道央自動車道、国道12号からの「本市への入口」である。</p> <p>現況土地利用は、製造業等の企業を誘致している工業団地と農地（水稻、玉ねぎ等）がほとんどで、一部に民間住宅団地がある。</p> <p>主要な立地施設としては道央自動車道三笠I.C、道の駅三笠のほか、小学校がある。</p> <p>文化保存活動により「傘おどり」が伝承されている。</p>	<p>工業団地への製造業以外の企業誘致を促進するため、都市計画用途について、「工業専用地域・工業地域」を「工業地域・準工業地域」へ変更済みであり、大型商業施設の誘致が決定している。</p> <p>大型商業施設の誘致に伴い、民間住宅団地の開発に取り組んでいる。</p> <p>市民活動が活発である。（植樹等の取組み）</p> <p>幾春別川の頭首工の魚道整備が実施されている。</p> <p>平成17年4月から、岡山小学校と萱野中学校で小中一貫教育を実施する。</p>
萱野	<p>旧萱野駅周辺に保育所、研修センター、中学校が立地している。</p> <p>山間部を切り開いた農地が広がっている。</p> <p>旧萱野駅周辺は、住宅団地として適地である。</p>	<p>市民活動が活発である。（旧萱野駅整備など）</p> <p>平成17年4月から、岡山小学校と萱野中学校で小中一貫教育を実施する。</p>
いちきしり	<p>岡山地区と三笠市街地を連担する地区で、道道岩見沢三笠線が地区を貫いている。</p> <p>道道周辺は農地が広がり、農協の選果場も立地している。</p> <p>地区からみえる達布山方面(北側)の緑は、景観性を高めている。</p>	<p>農家の方々が産地直販店舗（直売所）を開設している。</p> <p>農家の方々が自家製味噌をつくるなど、特産品開発の芽もふくらみ始めている。</p>
川内・達布	<p>大半が山林だが、かつての開発パイロット用地が広がっている。</p> <p>達布山の頂からは石狩平野を一望できる。</p>	<p>ワイン用のぶどう生産と、ワインの醸造・販売が行われている。</p> <p>ログハウスの宿泊研修施設もオープンしている。</p>
大里・美和	<p>大里には、山間部を切り開いた農地が広がっている。</p> <p>美和には、りんご園があり、ジュース等も加工・販売している。</p>	<p>小玉すいか「三笠の初恋」が話題となっている。</p> <p>木彫工房の営業や産地直販店舗の開設等が行われている。</p>

公共住宅戸数、人口・世帯、農家戸数・主な作物は平成 16 年 3 月 31 日現在、事業所数は平成 13 年 10 月 1 日現在

施設立地状況	公共住宅戸数 (建設管理課調べ)	人口・世帯 (住民基本台帳)	事業所数 (事業所企業統計調査)	農家戸数・主な作物 (農家台帳)
市民センター 小学校 道の駅三笠 太陽の丘展望台 三笠工業団地 郵便局 駐在所	市営： 36 合計 36	人口： 735 世帯： 271	建設、製造、運輸通信 33 卸売小売 24 金融保険、サービス 12 合計 69	26 水稻 玉ねぎ
中学校 保育所 多目的研修センター 旧萱野駅		人口： 181 世帯： 76	建設、電気ガス 2 卸売小売 2 サービス 6 合計 10	36 水稻 乳牛 豚 牧草 麦
下水道終末処理場 農協選果場		人口： 233 世帯： 76	農林水産 3 建設、製造、電気ガス、 運輸通信 4 卸売小売 1 サービス 2 合計 10	19 玉ねぎ 水稻
達布山展望台 ワイン醸造所 宿泊研修施設 産業廃棄物最終処分場		人口： 27 世帯： 11		6 ぶどう ばれいしょ かぼちゃ
中央霊園 工房くじら		人口： 174 世帯： 66	農林水産 1 建設 3 卸売小売 2 サービス 1 合計 7	29 水稻 メロン スイカ 麦

地区	地区の特徴	近年の動向
三笠地区・清住	<p>官庁、商店、飲食店、公共施設等が集積する本市の中心市街地で、人口の約 6 割がこの地区に居住している。</p> <p>中央公園を中心に、放射線状に市街地が広がっており、幌内地区への分岐点でもある。</p> <p>平成 5 年から分譲した民間住宅団地は、分譲が停滞している。</p>	<p>商店、飲食店等の廃業が目立ち、中心市街地の衰退がみられる。三笠市民生協の閉鎖により、生活利便性の低下がみられる。</p> <p>運動公園（各種スポーツ施設の配置）や河川環境整備が進み（パークゴルフ場の整備等）、公営住宅の建替えも行っているが、一方で公共施設の老朽化が目立つ。</p> <p>市民活動として、公共施設の草刈り等の取組みが芽生えている。</p> <p>市役所前に、民宿ができた。</p>
幌内	<p>石炭の発見により、本市発祥の原点といえる地区である。</p> <p>小樽手宮間に北海道で最初の鉄道が敷かれた。</p> <p>狭隘な土地に住宅地が形成されている。</p>	<p>市内外の住民により炭鉱遺跡を活用した活動が取り組まれている。</p> <p>三笠鉄道村は、近年、来場者が減っている。</p> <p>ミカサ・モダンアートミュージアム（旧幌内中学校の再利用）を整備した。</p> <p>旧幌内病院に民間が介護老人保健施設を整備した。</p> <p>平成 18 年度をもって、幌内小学校を三笠小学校へ統合する。</p>
唐松・東清住	<p>唐松青山と東清住には、農地が広がっている。</p> <p>最後の炭鉱であった北炭幌内炭鉱の立坑が残っており、周辺には工場が立地している。</p> <p>廃棄物処分場、リサイクルプラザ等の衛生施設がある。</p> <p>高台には改良住宅が立地している。</p> <p>幾春別川河川敷には「水辺の楽校」やパークゴルフ場が整備されている。</p>	<p>幾春別川の頭首工の魚道が整備される。</p> <p>農家の方が自家製野菜で漬物をつくり、特産品開発として注目されている。</p> <p>企業誘致に適した遊休地が残されている。</p> <p>旧唐松駅は、市民による自発的な整備が行われている。</p>
弥生	<p>高台に一団の住宅地が形成されている。（改良住宅、炭鉱住宅、一般住宅）</p>	<p>平成 16 年度末をもって、幾生中学校を三笠中央中学校へ統合する。</p>

施設立地状況	公共住宅戸数 (建設管理課調べ)	人口・世帯 (住民基本台帳)	事業所数 (事業所企業統計調査)	農家戸数・主な作物 (農家台帳)
市役所、消防署、教育センター、ふれあい健康センター、公民館、図書館、市民会館、市民センター3、老人福祉センター、婦人会館、各種スポーツ施設(ドーム、スポーツセンター、野球場等) 市立病院、特別養護・養護老人ホーム、保育所、小学校2、中学校2、高校、バスターミナル、郵便局、金融機関、警察署	市営： 1,152 改良： 28 道営： 42 雇用： 160 合計 1,382	人口：7,386 世帯：3,602	農林水産 2 建設、製造、電気ガス、 運輸通信 49 卸売小売 134 金融保険、不動産、 サービス 121 合計 306	28 きゅうり メロン 玉ねぎ
市民センター 共同浴場2 小学校 鉄道記念館 ミカサ・モダンアート ミュージアム	市営： 56 改良： 401 合計 457	人口： 910 世帯： 478	運輸通信 1 卸売小売 9 サービス 12 合計 22	
共同浴場 市民センター 旧唐松保育所、 旧さくら幼稚園、 パークゴルフ場、 水辺の楽校、小学校 廃棄物最終処理場 リサイクルプラザ 旧唐松駅 郵便局、駐在所	市営： 30 改良： 524 合計 554	人口：1,234 世帯： 648	製造、運輸通信14 卸売小売 18 サービス 16 合計 48	12 きゅうり メロン
共同浴場 市民センター 中学校、旧弥生保育所 (福祉の店ななかまど) 郵便局 駐在所	市営： 10 改良： 204 合計 214	人口： 853 世帯： 469	建設、製造、運輸通信 7 卸売小売 9 金融保険、不動産 サービス 11 合計 27	2 カンロ きゅうり

地区	地区の特徴	近年の動向
幾 春 別	<p>富良野芦別道立自然公園に繋がる東の玄関口である。</p> <p>かつては東洋一といわれた奔別炭鉱の立坑があり、炭鉱最盛期の面影が残されている。</p> <p>民間の梅園（邦梅園：梅 1 万本）が整備され、梅祭りへは、多くの観光客が訪れている。</p> <p>博物館は、アンモナイト化石などを数多く展示する世界的価値のある施設であるが、入館者は減少している。</p> <p>幾春別川にはカヌー乗り場がある。</p>	<p>三笠市民生協の閉鎖により、生活利便性が低下している。</p> <p>ドミニカ料理のレストランが新設された。</p> <p>平成 17 年 8 月、幾春別小学校を幾生中学校へ移転する。</p> <p>民間が介護療養型医療施設を整備した。</p>
桂 沢	<p>桂沢湖があり、周辺には観光ホテルや、民間温泉（2 軒）がある。</p> <p>桂沢水道企業団の浄水場は、本市をはじめ、岩見沢市、美唄市、栗沢町、北村へ飲料水を供給している。</p> <p>みかさ遊園、スキー場があり、夏にはキャンプ場としても賑わっている。</p> <p>アンモナイトなどの化石が埋れている。</p> <p>幾春別川にはカヌー乗り場がある。</p>	<p>桂沢ダムの高上げに向け、準備工事中である。</p> <p>周辺の森林では林業が営まれている。</p> <p>カヌーのメッカであり、全国的な競技大会が実施されている。</p>
奔 別	<p>かつては旧炭鉱街として繁栄していたが、現在居住者はいない。</p> <p>石炭の露天掘りが行われている。</p>	<p>三笠ばんべつダムの建設事業が進められている。（全国的にも珍しい 1 地区に 2 つのダム事業）</p>
合 計	<p>—————</p>	<p>—————</p>

施設立地状況	公共住宅戸数 (建設管理課調べ)	人口・世帯 (住民基本台帳)	事業所数 (事業所企業統計調査)	農家戸数・主な作物 (農家台帳)
市民センター 消防分遣所 小学校 市立博物館 森林資料館 ふれあいハウス 邦梅園 郵便局 金融機関 駐在所 ダム建設事業所	市営： 180 合計 180	人口： 850 世帯： 449	農林水産 2 建設、製造、運輸通信 8 卸売小売 30 金融保険、サービス 23 合計 63	2 きゅうり かぼちゃ
桂沢湖 桂沢観光ホテル キャンプ場 桂沢国設スキー場 みかさ遊園 温泉 ダム管理事務所 浄水場 発電所		人口： 17 世帯： 9	農林水産 1 建設、電気ガス 3 サービス 5 合計 9	1 きゅうり
			鉱業 1 合計 1	
	市営： 1,464 改良： 1,157 道営： 42 雇用： 160 合計： 2,823	人口：12,600 世帯： 6,155	農林水産 9 建設、製造、電気ガス、運輸通信 124 卸売小売 229 金融保険、不動産、サービス 209 鉱業 1 合計 572	合計 161